

静岡県立大学

開講時期	授業科目名 情報会計 I	担当教官名
前期	Accounting Information I	石川 純治
授業目標 会計情報と意思決定およびコンピューター技術に係わる学習を目標とする。		
授業概要 情報会計 I では「経営情報と簿記会計」をテーマに、企業活動の重要な記録計算システムである複式記録計算システムのモデルと、そのバリエーションとしてのさまざまな革新的記録計算システムを学習する。そして、今日のコンピュータ技術のもとで複式計算システムはどのような技術革新が可能かについて学習する。		
授業方法 一方的授業を避けるため、まず「何が問題か」そしてそれを「どう解くか」を明確にするため設問を解いてもらい、そのあとでテキストにそって解説するという方式をとる。なお、解説はOHPを用いる。最終日には、コンピューター実習室で私のホームページにあるデモンストレーションの一端を紹介する。		
授業展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 全体の講義紹介 2 単式簿記と複式簿記 3 複式簿記の展開表 4 損益の自動的2面計算と仕訳方式 5 キャッシュ・フロー計算と簿記システム 6 損益計算とキャッシュ・フロー計算の簿記構造 7 予算と簿記システム 8 利益の変動分析と簿記システム 9 モメンタム会計と簿記システム 10 多次元簿記システムと物量会計 11 コンピュータ技術と簿記システム 12 エクセルとアカウンティングのデモンストレーション紹介 13 総まとめ 		
履修条件 特になし。		

<p>評価方法</p> <p>平常点＋最終日のテスト。但し、集中講義であるので前者のウエイトが大きい。</p>
<p>テキスト・参考</p> <p>石川純治『経営情報と簿記システム（改訂版）』（森山書店、¥2,800）</p>
<p>備考</p> <p>講義ではテキストを最後まで使用するのので、講義当日に品切れにならないよう受講者は事前に購入しておいて下さい。</p>

開講時期	授業科目名 情報会計Ⅱ	担当教官名
後期	Accounting Information II	石川 純治
<p>授業目標</p> <p>会計情報と意思決定およびコンピューター技術に係わる学習を目標とする。</p>		
<p>授業概要</p> <p>情報会計Ⅱでは「エクセルとアカウンティング」をテーマに、表計算ソフト Excel 5.0 を用いてキャッシュ・フロー計算とインカム計算について学習する。最終日のデモンストレーションでは、エクセルで何ができるか、2つのフロー計算の相互自動変換、およびキャッシュフロー・パターンによる企業評価モデルとその実証分析について講義する。</p>		
<p>授業方法</p> <p>一方的授業を避けるため、まず「何が問題か」そしてそれを「どう解くか」を明確にするため設問を解いてもらい、そのあとでテキストにそって解説するという方式をとる。なお、解説はOHPを用いる。最終日には、コンピューター実習室で私のホームページにある4つのデモンストレーションをおこなう。</p>		

<p>授業展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全体の講義紹介 2 キャッシュ・フロー計算書の2つの作成方法 3 損益計算とキャッシュ・フロー計算（C/F）の簿記構造 4 P/LとC/Fの複式仕訳の対比：複式仕訳の相対化 5 損益計算とキャッシュ・フロー計算のギャップ分析 6 キャッシュフロー革命と企業経営 7 C/F, P/L, B/Sの動的相互関連 8 複式簿記のサイエンス 9 エクセルとアカウンティング：4つのデモンストレーション 10 総まとめ
<p>履修条件</p> <p>簿記会計の初級知識をもっているか、あるいは情報会計Iを受講しておれば、より理解されるであろう。</p>
<p>評価方法</p> <p>平常点+最終日のテスト。但し、集中講義であるので前者のウエイトが大きい。</p>
<p>テキスト・参考</p> <p>石川純治『キャッシュ・フロー簿記会計論』（森山書店、¥2,500）</p>
<p>備考</p> <p>講義ではテキストを最後まで使用するので、受講者は事前に購入しておいて下さい。</p>

九州大学大学院 平成15年度 授業計画

財務会計特研 I

開講学期単位数：前期・2単位

対象学生：修士

授業の概要：現代企業会計の理論と制度について研究する。具体的には金融商品会計の理論と制度、現在価値会計の理論と制度、無形資産の会計問題、資本の会計問題、財務業績報告の将来方向、といった内容を順次取り上げ、今日の主要な会計問題についての知識と洞察を得ることを目標にする。

重要な点は、それらの各トピックをばらばらに学習するのではなく、常に一貫した問題認識から研究することである。たとえば基礎概念や基礎理論から各トピックを横断的に繋げていく視点、あるいは社会科学的・政治経済学的視点に貫かれた研究の重要性を理解することである。

講義の進め方：教科書にそった講義及び演習方式。

教科書及び参考図書：石川純治『時価会計の基本問題』（中央経済社、2000年）及び指示文献。

試験・成績評価等：レポート提出。

その他：私のホームページの「インターネット講座」など参照。

財務会計研究 I

開講学期単位数：前期・2単位

対象学生：博士

授業の概要：現代の企業会計の制度的・政治経済的性格を現状分析（実証分析）によって明らかにすることを1つの課題にする。特に、米国流の数理統計学やエコノメトリックスによる実証研究とはまた異なる政治経済学的側面を重視した実証分析が課題になる。

古典といわれる作品の眼をとおして、そこでの問題意識とその現代的接点を探ることをもう1つの課題にする。英米圏の文献もそれとのかわりで取り上げ、そこでの到達レベルと日本の理論的蓄積との相対比較をとおして、社会科学としての会計学の現代的意義と課題について研究する。

講義の進め方：講義及び演習方式。

教科書及び参考図書：その都度指示する。

試験・成績評価等：レポート提出。

その他：私のホームページの「インターネット講座」など参照。

大学院集中講義の概要

I テーマ：現代企業会計の理論的および制度的解明

「(会計)配分」vs.「(価値)評価」を1つの視軸にして、現代企業会計の理論的解明を試みたい。

その基本文献は、購読文献⑤および筆者のHPの「学会・セミナー報告」での「業績報告のゆくえを巡って」(中央青山監査法人研究セミナー報告)である。それらの文献で取り上げたテーマを講義し、もって今日の企業会計にみられる特徴(全体的性格)を明らかにすることを1つの目標とする。

もう1つの目標は、現代の企業会計の制度的・政治経済的性格を現状分析(実証分析)によって明らかにすることである。特に、米国流の数値統計学やエコノメトリックスによる実証研究とはまた異なる政治経済学的側面を重視した分析が課題になる。HPに連載中の「時事会計教室」を1つの基本文献とする。

I テキスト：『時価会計の基本問題』中央経済社、2000年。

I 購読文献

拙著：

- ①「金融商品会計の理論的基礎」『企業会計』2002年12月号。
- ②「減損会計と利益計算の構造」『企業会計』2001年11月号。
- ③「時価会計と資本利益計算の変容(上)(下)」『経営研究』第53巻第2及び3号。
- ④「割引現在価値と会計配分」『経営研究』第53巻第3号。
- ⑤「企業会計のハイブリッド構造」『会計』2003年1月号。
- ⑥「書評：磯山友幸『国際会計基準戦争』」『経営研究』第53巻第4号。
- ⑦「書評：木村剛『竹中プランのすべて』」『経済学論集』第35巻第1号。
- ⑧「金融資産、独自の会計必要」日本経済新聞「経済教室」2000年12月18日。

その他の文献：

斎藤静樹編著『会計基準の基礎概念』(中央経済社、2002年)など、その都度必要なものを指示する。

I 私のHP：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm>

特に、①最近の論考、②学会・セミナー報告、③時事会計教室、および④書評コーナーに掲載している必要文献をその都度指示するので、それらを事前に参照されたい。

大阪市立大学大学院

番号	科目名 財務会計論研究 英文科目名 Financial Accounting	非常勤講師 (前本学教授) 氏名 石川純治
科目の主題と目標		
今日の企業会計の理論と制度が主題である。そして、今日の企業会計にみられる計算構造的特徴を明らかにすることを目標にする。		
授業内容・授業計画		
以下の内容を取り上げ、今日の主要な会計問題についての知識と洞察を得ることを目標にする。 1) 金融商品会計の理論と制度 2) 割引現在価値計算と会計 3) 無形資産の会計 4) 自己資本の今日的問題 5) 財務業績報告の将来方向 6) 企業会計の政治経済学 重要な点は、それらの各トピックをばらばらに学習するのではなく、常に一貫した問題認識から研究する姿勢である。たとえば基礎概念や基礎理論から各トピックを横断的に繋げていく視点、あるいは社会科学的・政治経済学的視点に貫かれた研究の重要性を理解することである。		
評価方法		
平常点ないしはレポート。		
受講者へのコメント		
私のホームページの「インターネット講座」、「最近の論考」など参照。		
教材		
石川純治『時価会計の基本問題』(中央経済社、2000年)、及び指示文献。		

大学院集中講義の概要

I テーマ：現代企業会計の理論的および制度的解明

「(会計)配分」vs. 「(価値)評価」を1つの視軸にして、現代企業会計の理論的解明を試みたい。

その基本文献は、購読文献⑤および筆者のHPの「学会・セミナー報告」での「業績報告のゆくえを巡って」(中央青山監査法人研究セミナー報告)である。それらの文献で取り上げたテーマを講義し、もって今日の企業会計にみられる特徴(全体的性格)を明らかにすることを1つの目標とする。

もう1つの目標は、現代の企業会計の制度的・政治経済的性格を現状分析(実証分析)によって明らかにすることである。特に、米国流の数値統計学やエコノメトリックスによる実証研究とはまた異なる政治経済学的側面を重視した分析が課題になる。HPに連載中の「時事会計教室」を1つの基本文献とする。

I テキスト：『時価会計の基本問題』中央経済社、2000年。

I 購読文献

拙著：

- ①「金融商品会計の理論的基礎」『企業会計』2002年12月号。
- ②「減損会計と利益計算の構造」『企業会計』2001年11月号。
- ③「時価会計と資本利益計算の変容(上)(下)」『経営研究』第53巻第2及び3号。
- ④「割引現在価値と会計配分」『経営研究』第53巻第3号。
- ⑤「企業会計のハイブリッド構造」『会計』2003年1月号。
- ⑥「書評：磯山友幸『国際会計基準戦争』」『経営研究』第53巻第4号。
- ⑦「書評：木村剛『竹中プランのすべて』」『経済学論集』第35巻第1号。
- ⑧「金融資産、独自の会計必要」日本経済新聞「経済教室」2000年12月18日。

その他の文献：

斎藤静樹編著『会計基準の基礎概念』(中央経済社、2002年)など、その都度必要なものを指示する。

I 私のHP：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm>

特に、①最近の論考、②学会・セミナー報告、③時事会計教室、および④書評コーナーに掲載している必要文献をその都度指示するので、それらを事前に参照されたい。

